

ただとも通信 No.71

急いで決めて大丈夫？ 予算と自衛隊派遣をいま考える

3月13日、2026年度予算案が衆議院を通過しました。しかし、その進め方には大きな問題があります。審議時間は2000年以降で最も短い59時間にとどまり、予算委員長が野党の合意なしに日程を決めた「職権」の行使は16回にも及びました。さらに、各省庁の予算の中身を細かくチェックする「分科会」も、37年ぶりに開かれませんでした。これでは、国民の税金の使い道を十分に確かめたとは言えません。

しかも、この予算案は昨年12月に決められた内容がもとになっており、2月28日以降に深刻化した**イラン情勢や原油価格の上昇リスク**が十分に反映されていません。世界の状況が大きく変わっているのに、その変化に対応しないまま予算を急いで通すのはとても危ういことです。このように「生煮えのまま」参議院に送ることは参議院に身を置く者として承服できません。

さらに心配なのは、トランプ米国大統領がSNSで日本などを名指して「ホルムズに艦船派遣を」と求めてきた点です。19日には日米首脳会談も行われる予定です。アメリカに言われるまま動くのではなく、日本として本当に必要なのか、法的な根拠はあるのかを丁寧に考えなければなりません。あいまいなまま派遣を決めれば、自衛隊員の命も国民の安全も危険にさらしかねません。日本にはイランとの長い友好関係があります。その外交の力を生かし、対話によって緊張を下げる努力をするべきです。



16日から予算案は参議院で審議入りしました。参議院では、衆議院で十分に議論されなかった物価高対策や自衛隊派遣の是非について、時間をかけてしっかり議論することが必要です。国民の暮らしと命を守るために、拙速ではなく、ていねいで責任ある政治を同僚議員とともに進めていきます。

